

解説

# 推進技術海外普及事業報告 インドネシア バンドン工科大学 技術セミナー (SIBE2025)

なかの まさあき  
**中野 正明**  
(公社)日本推進技術協会  
顧問

## 1 はじめに

昨年11月4日と5日の二日間にわたり、(公社)日本推進技術協会（以下、本協会）とバンドン工科大学（以下、ITB）の交流セミナーが行われ、今回で4回目となります。盛況な交流会となりました。今回は特に数年に一度ITBで開かれる国際会議：International Conference on Sustainable Infrastructure and Built Environment（以下、SIBE2025）と時期が重なるため、ITB側からの要請もあって、本協会として正式にSIBE2025に協賛することとなりました（写真-1）。カンファレンスの参加国はインドネシアをはじめとして、イギリス、オーストラリア、シンガポール、ミャンマー、台湾、日本などで、連日それぞれのセミナーなど熱心な討議がなされました。

また第1日目の開会式の中で、本協会とITBとの間で



写真-1 SIBE2025開催を示す横断幕

今後の推進技術の普及、発展に関する覚書（MOU）の取り交わしが行われ、両者が協力してインドネシアにおける規格基準の制定や人的交流を進めることができました（写真-2）。



写真-2 覚書（MOU）署名式

## 2 これまでの経緯と背景

インドネシアにおける推進工事は20年ほど前に一度ODA案件で出件され、その後10数年前からローカル発注で数件の施工実績がありますが、推進技術の規格基準および標準歩掛などは統一されていません。そのため発注業務に携わる優秀な担当者でもどのような方針、基準で案件を形成して発注すればいいのかわからず、また相談する相手がおらず、悩むことがありました。また、当然のことながら発注後にも契約交渉、施工計

画の評価、施工における課題（トラブル）、設計変更への対応など様々な問題が生じ、その対応にも苦慮する場面が多くありました。

一方、日本においては下水道グローバルセンター（以下、GCUS）が10数年前より海外特にアジア汚水管管理パートナーシップ（AWaP）に加盟する諸国に対して、推進工法の規格基準を作成して提供するプロジェクトが行われてきました。まず初めにベトナム国を対象として2014年に「ベトナム版推進工法基準」（赤本）が発行されました。その後数回の改訂作業が行われるとともに、対象範囲を広げて「アジア版推進工法基準」構想へと発展し、今回「インドネシア版推進工法基準」（青本）を作成し、今後現地政府に手交するとともに、普及活動が開始されるところです。

その普及活動の一環として現地の要望も踏まえて、まずは下水道および推進技術の基礎を、将来を担う若手技術者（大学生）にプレゼンし、興味を持っていただくためにセミナーを企画しました。

第1回目は2022年に行われ、その後毎年ITBで多くの学生を集めて継続し、今回で第4回目となります。今回特にSIBE2025に協賛してのカンファレンスになりましたので、セミナー参加者も200名近くに上り、その後の現場見学会にも80名の学生が参加していただけました（写真-3）。



写真-3 SIBE2025セミナー参加者（一部）

### 3 実施報告

#### 3.1 11月4日 オープニングセレモニー

当日は9時からオープニングセレモニーが行われ、大

臣やITB学長などの挨拶に引き続き（写真-4、5）、本協会とITBとの推進技術普及に関する覚書（MOU）の署名と公開がありました（写真-6）。



写真-4 オープニングセレモニー



写真-5 多くの参加者を集めたセミナー会場

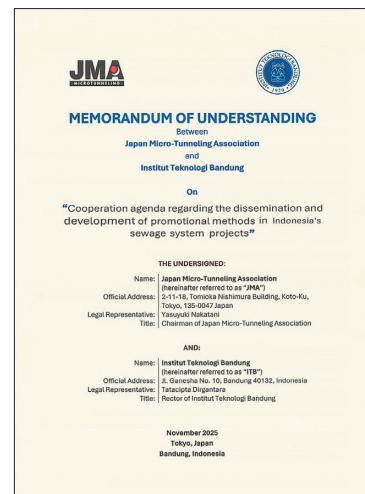


写真-6 公開された覚書（MOU）表紙

#### 【覚書】（概要）

名称「インドネシアの下水道事業における推進工法の普及展開に関する協力事項の覚書」